

第78回麻布獣医学会 一般講演1

平成15年度産業動物臨床基礎実習に関するアンケート調査

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 金子 一幸,
伊東 正吾, 川上 静夫, 押田 敏雄, 和田 恭則

麻布大学獣医学部・生産獣医学系

【目的】平成15年度から獣医学科1年次(前期1単位, 自由科目)を対象に実施された本実習の目的は, 動物病院産業動物部門に入院した産業動物を管理することによって, 臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得することにあった。その際, 実習終了後に産業動物に対する学生の認識等を把握するためにアンケート調査を実施したので報告する。

【方法】本実習の履修者は81人(全体の55%)であった。週1回の講義を11回(3時間/回), さらに20班(4~5人/班)に分け, 班単位で午前・午後の実習(実技; 7日間, 2時間/日)を教育用動物繋留室, 大動物実習室で実施し, 最後に実習報告会を行った。対象動物は, ホルスタイン種成牛14頭(乳房炎1頭, 第四胃変位11頭, 火傷2頭), 子牛3頭(臍ヘルニア2頭, 脱毛症1頭), ジャージイ種子牛1頭, 成豚11頭, 子豚5頭であった。

【結果】履修者の出身地は関東(58%)が最も多く, 次に中部(16%)であった。卒業後の就職希望先は小動物病院(55%)と未定者(20%)を除けば, 他の分野は10%未満であった。さらに本実習の履修生

の90%は, これまで牛や豚に接した経験がほとんどなかった。本実習全体に対する満足度は68%, とくに実技では94%と高かったが, 講義の満足度は33%であった。評価の高かった講義科目は豚(28%), 牛(18%), 一般検査(13%), 外貌(11%)の順であった。実技では搾乳(33%)と経口投与(13%)をはじめ, 子牛の管理, 第四胃手術, 飼料の調整も評価されていた。実際に動物に触れた印象としては, 牛の大きさ, 温かみ(37%), 可愛い, 大人しい, 繊細である(23%)ことを実感している。実習全体に対する改善点としては, 実技の時間が短い(48%), 講義の時間が長い(45%)との意見に集約された。一方産業動物臨床に対する見方は, 変わった(44%), 興味を持てた(19%), 理解が深まった(24%)との意見が多く, 概ね実習全体の満足度を反映していた。今回のアンケート調査により, 産業動物に対する獣医師の社会的役割や我が国における産業動物の重要性等を体験的学習で理解が深まったと判断されたが, 次年度は今回の調査結果を授業計画にどうように活かすべきか, さらなる検討が必要である。